

## 交換留学(派遣) 帰国報告書

皆さんが無事留学を終えられたことを嬉しく思います。本報告書は以下の目的のために使用されます。

- ① 皆さんの留学に関する状況を把握するための資料です。  
② 今後、交換留学プログラムを改善するための重要な資料となります。  
③ 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。

あなたの情報(本報告書を開覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	ワシントン大学
留学先での所属学部・研究科:	経営学部
留学先での在籍身分:	交換留学生
留学期間:	9ヶ月
神戸大学での所属学部/研究科:	経営学部
学年(出発時):	3年生
帰国日:	6月11日
本報告書記入日:	2024/6/26



## 1. 留学先大学について

1-1	受入許可書(Acceptance Letter)を貰えた日	6月 6日
	参加必須のオリエンテーション日	月 日
	学期:	① 9月 27日～ 12月 15日
		② 1月 3日～ 3月 15日
③ 3月 25日～ 6月 7日		
④ 月 日～ 月 日		
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。	UCLAなどと同じくpublic ivyというアメリカのトップクラスの公立大学のグループの一つとして位置付けられている大学。医学やコンピューターサイエンス、ビジネススクールが看板学部である。
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。	
	語学面でのサポート:	特に利用しなかったのでよくわからない
	勉学面でのサポート:	core coursesに位置付けられている授業に関しては、補習があり、自分も実際にテスト前など利用していた。
	精神面でのサポート:	カウンセラーがいると聞いたが、利用したことがない。
	住居・生活面でのサポート:	寮に住むと、RAと呼ばれるフロアの学生のリーダーや、寮を取り仕切るAlmuniがトラブル等あれば手助けをしてくれる
	課外活動のサポート:	Fosterが多種多様なイベントの機会を設けている。
1-4	近況報告書提出後に履修した授業について記入してください。	<a href="#">クリックで別シートへ</a>

## 2. 住居について

2-1	住居についてアドバイスを含まれ自由に記入してください。(気を付けること等)	今回、私自身が留学した経験から、必ずしも学内の寮に住むことがベストなオプションではないということをお伝えしたい。寮費は年々上昇しており、私のケースでは月25万円を支払って、仕切りなしのダブルルームであった。ルームメイトとの生活はトラブルも多く、心身ともにストレスがかかるので、留学生活の質に大きく影響を及ぼす。(ストレス耐性を鍛えることも留学の目的の一つとして考えるという考え方もあるが)このような状況においては、より安い家賃+個人の部屋が手に入るキャンパス外のアパートメントを借りるという手段を選ぶ方がベターかもしれない。
-----	---------------------------------------	--

## 3. 生活について

3-1	インターネット接続環境について	
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。	寮を含め、キャンパス全体にUWのwifiが通っているので、学内で生活する限り、困ることは一切ない。別途使用料もかからない。
	大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	基本的にキャンパス内は強力なwifiが通っているので、心配いらない。
3-2	医療について	とにかく医療費がとんでもないので、友人から倒れた時は、救急車ではなくUberを手配しろと言われていた。
	留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	通っていない。(立派なトレーニングセンターがあるので、体を鍛えたりするなど、運動習慣を持つことで、ある程度心身の健康を保てると思う。)衛生面に関しては特に日本とは何も変わらない。
3-3	銀行口座等について	HUBという建物の中にUS BANKのオフィスがあり、口座手続きをスタッフの手助けを借りながらできるシステムになっている。(私も一応口座開設を行なった。)
	留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	VISAのクレジットカードをそのまま利用していた。(sony bankのカードを持っていたので、現地通貨をそのまま引き出すことも可能であった。)

## 4. 経費について(奨学金、留学費用)

4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	JEES学研災グローバル人材育成奨学金
	支給額(円/月):	10万円
	その他(渡航費等の支給):	20万ほど
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	行き:110,000円 帰り:220,000円
	住居費:	(月額) 158,652円(\$1017) × (留学月数) 9ヵ月 = 1,427,868円
	食費:	(月額) 55,380円(\$355) × (留学月数) 9ヵ月 = 498,420円
	保険料:	73,370円
	その他:	500,000円
	合計(留学期間全体の費用):	2,499,658円(ボストンキャリアフォーラムの費用は含んでいないのであくまで参考程度に)

5. 異文化体験について		
5-1	留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。	天候の予測ができないので、ほとんどの人が雨が結構降っていても、傘を差さない上、携帯もしていない。
	大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。	基本的に学内の友人や教授としか関わっていなかった。(大学の教授の方のコンネクションでボーイングの元役員の方主催のツアーに参加等はした。)
	課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。	していない
	留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)	治安ははっきり言って日本と比較するとはるかに悪い。ただ、人種差別は一切、経験していない。ただ、男女で多少違うかもしれない。

6. 就職活動について		
6-1	留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。	就職活動を行なった。ポスコンキャリアフォーラムに参加し、オファーも貰ったがその後辞退し、2,3月からの一般選考にオンラインで参加し、内定を貰った。

7. アドバイス、振り返り		
7-1	現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。	日本から持参したガイドブック、友人からの口コミ
7-2	現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。	ふりかけ、ツナ缶、カイロ(日本のものの方が長持ち)
7-3	留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)	周りの学生の意識も高く、キャリアプランについて考えさせられるタイミングが多いので、どういった企業に勤めたいのか、何を人生において優先するべきなのかについての考えが深まった。
	語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。	留学前:( ) 点 → 帰国後:( ) 点
7-4	振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。	友人とハイキングに出かけようとして、バスで待ち合わせ場所まで向かった際、財布を失くした。(後日、King county transportationのlost foundに電話をかけ、財布を取り戻した。正直言って幸運であった。)
7-5	留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。	大変丁寧に対応していただきました。感謝しております。
7-6	本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。	大いに薦める。理由としては、日本国内で英語学習に励んだり、海外の学生とコンテストなどに取り組むのと、実際に別の国に単身で乗り込んで、生活し、0からコンネクションを築いていくのでは、得られるものがまるで違うからである。
7-7	留学全体を振り返って、以下の質問に答えください。	(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)
	・留学先大学の授業の「質」(内容、レベル等)に満足しましたか	5
	・留学先大学の学生サービスに満足しましたか	4
	・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか	3
	・住居の「質」(広さ、料金等)に満足しましたか	1
	・全体として留学に係る費用は安かったと思ひ、満足しましたか	1
	・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか	5
・留学全体の総合的な評価	4	

8. その他感想、後輩へのメッセージ等を自由に記載してください。(800字～)	
<p>私がワシントン大学に留学して感じたこと、学んだことの中で留学する皆さんに共有したい三つのことについてここで記述したいと思ひます。</p> <p>一つ目は、「ハタタリが非常に大切だ/根拠のない自信は意外と大事である」ということです。授業においても、旅行先においても、英語を話すとき向こうは少し聞きにくそうにしたりするので、つい英語が通じているのか不安になり、英語そして話している内容自体にも自信がなくなってしまうタイミングが僕自身ありました。結果として、グループワークでお豆腐になってしまったり、空港で事情を中々聞いてもらえなかったりと好ましくない状況になることが多々ありました。しかし、時間が経つにつれて、恥じらいが消えて、手を変え品を変え、何度も粘り強く自分の考えを伝えることで現地の人が立ち止まって聞いてくれるようになりました。自分が損しないためにも、仮に自分の意見やアクセントに自信がなくなると、少なくとも自信があるように見せる努力はとて大切だと思います。</p> <p>二つ目は、「Quantity produces quality」ということです。具体的に言えば、とにかく誘いは断らない方が良いということです。最初のうちは特に友人やクラスメイトに誘われたら、遊びでも学習関連でもイベントには参加するべきです。そこから、思いがけないコンネクションに行き着いたり、支え合える仲間が見つかったりするからです。後から所属するコミュニティや友達などを絞ることは可能なので、最初のうちは沢山動いてみることをお勧めします。特にアメリカは授業でも、友人同士でグループを作ったりすることも多いので、単純にコンネクション、知人が多い方が有利になります。僕自信、授業で仲良くなった友人と日本料理店に行ったり、アメフト観戦を一緒にしたりと、授業の際にグループワークで仲良くなった友人のおかげで留學生活の充実度がグッと上がった経験がありました。</p> <p>三つ目は、「語学力の向上に関して、あまり過度な期待を抱きすぎない」ということです。これの意味するところは、着実に少しずつ英語力は伸びていくので、焦らなくて良いということです。特に留学して最初の三ヶ月は周りの英語に圧倒されると思います。理由としては、日本では習っていない英語に日々触れるので、耳がそれに慣れる、そして自分でフレーズを使いこなせるようになるには尚更結構時間がかかるということです。しかし、半年を過ぎると、大分英語力も伸びて、楽になってくるので安心して下さい。</p> <p>加えてリスニングは日々生活しているだけでも伸びていくが、スピーキング力に関しては、現地の学生と積極的にコミュニケーションを取っていく中でしか磨かれていかないということもお伝えしておきたいと思ひます。これに関しては、バディやルームメイト、サークルのメンバーやクラスメイトなどに多少恥をかいても良いので無理矢理コミュニケーションを図るしかないと思ひます。しかしながら、話が重複してしましますが、決して焦る必要もないと思ひます。自分自身恥じらいを捨てられるようになるまでに三、四ヶ月かかりました。一度自信がゼロになる瞬間があっても、苦しんだ分だけ英語は伸びていくので、安心して下さい。</p> <p>最後に、アメリカについてばかり色々書いてしまいましたが、この報告書を読まれている皆さんが無事に留學生活を送り、非常に有意義な時間を海外で過ごされることを切に願っております。大学を卒業してしまうと、この先の人生において長い時間をとって海外に身を置くことが難しくなります。そういった意味でも交換留学は非常に貴重な体験であると思ひますので存分に味わってください。</p>	

## 1-4 近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	授業で の使用 言語	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等の成績評価 についてアドバイスも含めて教え てください
1	FIN460	Christopher Hrdlicka	100min *2/per week	4	English	40~50人	毎週のエクセルを用いた課題 と中間テスト、期末テストが成 績の大半を占める。毎週の課 題がかなり厄介である。
2	FIN462	Monica Marin	100min *2/per week	4	English	50人~ 60人	デリバティブなどを扱う。 Forward contractやFutures contractなどの理論を本質的 に理解していないと中間テスト や期末テストで点数を取るこ とはできない。(中間テスト、 期末テスト、チーム課題が成 績の大半を占める。)
3	FIN490	Phillip Bruner	100min *2/per week	4	English	20人程 度	サステナビリティファイナンス の授業。発表+期末テストが成 績の大半を占める。
4	FIN350	Jarrad Harford	100min *2/per week	4	English	50~60人	ごく普通のコーポレートファイ ナンスの授業。初学期に履修 することをお勧めする。
5	MKTG301	Esther Uduehi	100min *2/per week	4	English	50~60人	基本的なマーケティングのフ レームワークを学ぶ授業。学 期の最後にグループでプレゼ ンを行う。三回のテストとプレ ゼンで成績が決まる。

6	IBUS300	Leta Beard	100min *2/per week	4	English	50~60人	各国のcultural differencesがどのようにビジネスのコンテキストに影響を与えるのかを学ぶ。最終プレゼンでは、企業のビジネスの進出先を選定し、ブースなどを設置し、教授や他の学生に対してピッチを行う。
7	FIN423	Xu Lu	100min *2/per week	4	English	20~30人	主にサブプライムローン問題に関して、ファイナンス理論を用いて構造や原因などを学んでいく。
8	MKTG430	Barry Erickson	100min *2/per week	4	English	20~30人	心理学的アプローチ、理論を一通り学んだ後、最終プレゼンでロールプレイングをする。スクリプト作成などを
9	IBUS491	Hiroki Onitsuka	100min *1/per week	1	English & Japanese	10人~20人	UWの日本語サークルのようなもの。日本へ留学予定の学生などが集まり、日本語と英語を使ってアクティビティを行う。
10							

#### ・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズに関しては、一クラス、約50~60人ほどのものもあれば、15~20人程度のものもある。400レベルの授業は比較的履修者が少ないケースが多く、よりインタラクティブな内容である可能性が高い。(グループディスカッションやプレゼンなどを含む)成績評価に関しては、教授によるとしか言いようがない。ただ特徴として、日本の大学のようにfinalだけでgradeが決まるケースは稀であり、日々の課題、レポート、quiz、プレゼンなどを含む総合的な取り組みの質によってgradeが決定することが多い。現地学生の取り組みとしては、人によってまちまちである。本当にやる気のない、テストだけに現れる学生もいれば、オフィスアワーをよく利用する学生もいる。ただ、fosterにいる学生のほとんどはグループプロジェクトやチーム課題に対して積極的であり、協力的であるので、他の学生の取り組みによって自分の成績が大きく左右されてしまうことを心配する必要はあまりないと思ってもらえればと思う。(また教授によっては、peer reflectionのようなチームメンバーの評価を各メンバーが匿名で教授に提示できる機会を与えられるケースもある。)